

最近の管内経済概況

(2020年4月の経済指標を中心として)

～ **新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況となっている** ～

最近の動きをみると、

- 生産活動は、急速に低下している。
- 個人消費は、一部が急速に低下している。
- 観光は、悪化している。
- 公共工事は、増加している。
- 住宅建設は、低下している。
- 民間設備投資は、おおむね横ばいとなっている。
- 雇用動向は、弱い動きがみられる。
- 企業倒産は、件数、負債総額とも増加している。

全体として、管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況となっている。

なお、先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響の拡大、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

2020年6月15日

照会先 : 経済産業省 北海道経済産業局
総務企画部 企画調査課

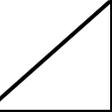
T E L : 011-709-2311 内線 2525

E-mail : hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L : <https://www.hkd.meti.go.jp>

管内経済概況判断の推移

(2020年6月現在)

発表月	2020年1月	2月	3月	4月	5月	6月	前月との判断比較
総括判断	一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み状態となっている	一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み状態となっている	一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み状態となっている	足踏み状態となっており、 <u>足下で新型コロナウイルスの影響がみられる</u>	新型コロナウイルス感染症などの影響により、 <u>弱い動きとなっている</u>	新型コロナウイルス感染症の影響により、 <u>厳しい状況となっている</u>	
生産活動	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	急速に低下している	
個人消費	一進一退となっている	<u>一部に弱い動きがみられる</u>	一部に弱い動きがみられる	<u>一部が弱い動きとなっている</u>	弱い動きとなっている	<u>一部が急速に低下している</u>	
観光	一部に弱い動きがみられる	一部に弱い動きがみられる	一部に弱い動きがみられる	<u>悪化しつつある</u>	<u>悪化している</u>	悪化している	
公共工事	増加している	<u>減少している</u>	<u>増加している</u>	増加している	<u>減少している</u>	<u>増加している</u>	
住宅建設	弱まっている	<u>弱い動きとなっている</u>	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	<u>低下している</u>	
民間設備投資	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	<u>おおむね横ばいとなっている</u>	
雇用動向	改善している	改善している	改善している	<u>足踏み状態となっている</u>	<u>弱い動きがみられる</u>	弱い動きがみられる	
企業倒産	件数は減少、負債総額は増加している	件数、負債総額とも増加している	件数、負債総額とも増加している	件数は同数、負債総額は減少している	件数、負債総額とも減少している	件数、負債総額とも増加している	

※下線部は、前月から判断を変更した部分。

※「新型コロナウイルス」の表現は、2020年5月の発表から「新型コロナウイルス感染症」に統一。

※企業倒産は、3月の発表から他の項目と最新のデータ月を統一。このため、3月発表は2月発表と同じ内容を掲載。

 上方修正  据え置き  下方修正

生産活動 ～ 急速に低下している ～

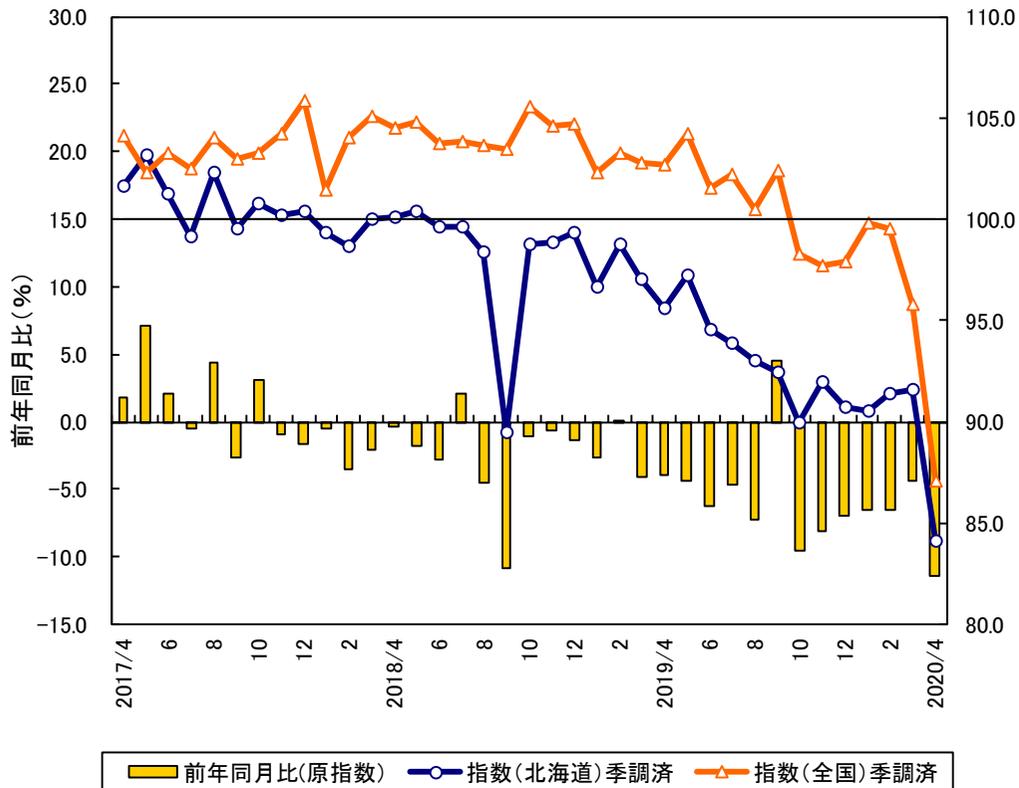
4月の鉱工業生産は、前月比▲8.2%と3か月ぶりに低下した。低下業種は、一般機械工業、輸送機械工業など13業種となった。上昇業種は、プラスチック製品工業など2業種となった。

<4月> 季節調整指数	
北海道(速報)	84.1(前月比▲8.2%)
全国(速報)	87.1(前月比▲9.1%)

【ヒアリング内容】

- 新車販売が不振であることや海外の自動車工場の生産停止などから、自動車部品の生産が落ちている。
(輸送機械工業)
- 家で食事をする機会が増えたため、家庭で消費する食品向けのプラスチック製容器の生産が増加した。
(プラスチック製品工業)
- 自動車向け需要の減少により、特殊鋼棒鋼の生産が減少しており、今後もしばらく続く見込み。
(鉄鋼業)

鉱工業生産指数(2015年=100.0)



鉱工業生産指数の推移(3ヶ月後方移動平均)

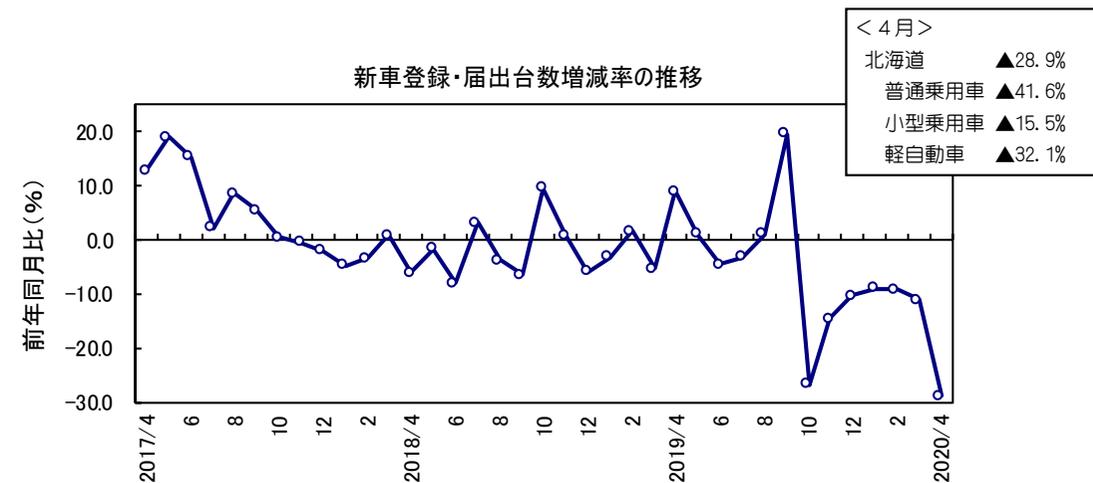
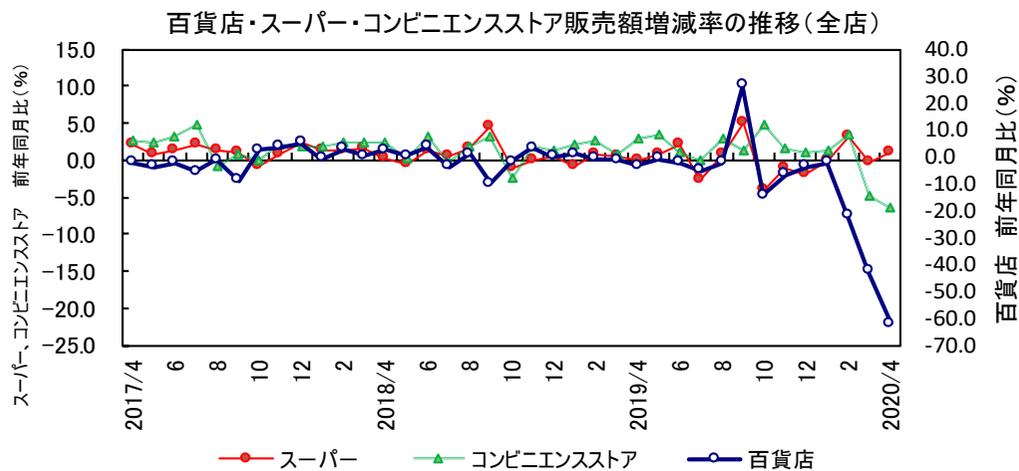


(資料：経済産業省、北海道経済産業局)

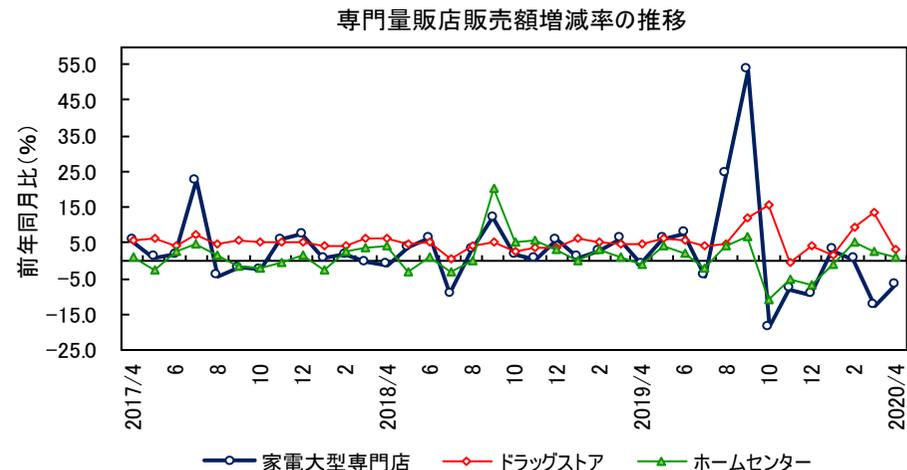
個人消費 ～ 一部が急速に低下している ～

4月の個人消費は、スーパー、ドラッグストア、ホームセンターは前年を上回ったものの、他の業態は前年を下回った。

- 百貨店は、臨時休業やインバウンド需要の減少などにより、前年同月比▲61.9%と7か月連続で前年を下回った。
- スーパーは、内食需要の高まりから、飲食料品の売上げが伸びたことにより、同+1.1%と2か月ぶりに前年を上回った。
- コンビニエンスストアは、同▲6.5%と2か月連続で前年を下回った。
- 家電販売は、同▲6.7%と2か月連続で前年を下回った。ドラッグストアは、同+3.2%と5か月連続で前年を上回った。ホームセンターは、同+0.8%と3か月連続で前年を上回った。
- 新車販売は、同▲28.9%と7か月連続で前年を下回った。



(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)



(資料：北海道経済産業局)

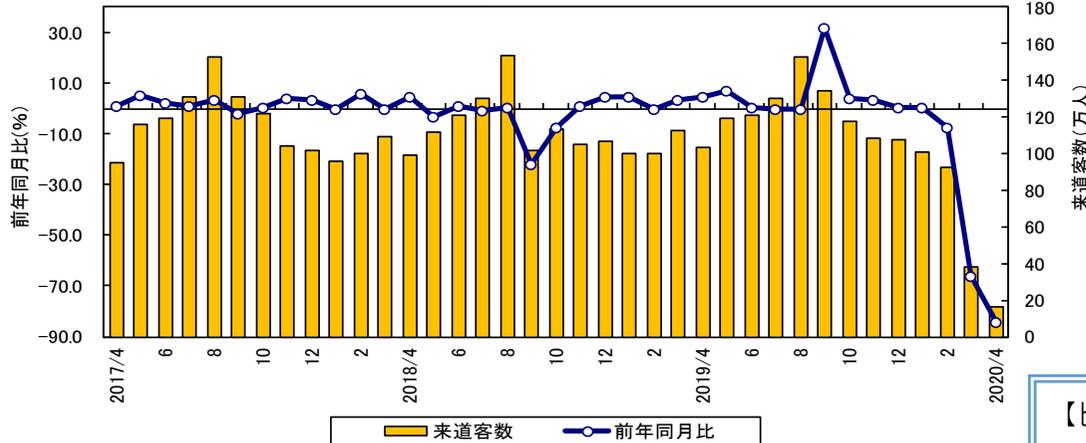
【ヒアリング内容】

- テレワークの普及などにより、家で調理をする機会が増えているようだ。内食化の傾向が更に強まっており、生鮮食品、パスタ、ホットケーキミックス、調味料などの売上げが伸びている。(スーパー)
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、テレワークのためのパソコン周辺機器の需要が伸びる一方、カメラなど外出関連の商品の動きが悪くなっている。(家電)
- マスク、使い捨て手袋など新型コロナウイルス感染症対策のための商品のほか、在宅時間が長くなったことにより、トイレトペーパーなどの消耗品やDIY関連の売上げも伸びている。(ホームセンター)
- 外出自粛により、ゴールデンウィーク期間に入っても人の動きがなく、連休らしい需要がなくなってしまったようだ。(コンビニエンスストア)

観光 ～ 悪化している ～

4月の来道客数は、前年同月比で▲84.2%と3か月連続で前年を下回った。また、道内外国人入国者数は1人で、同▲100.0%と7か月連続で前年を下回った。

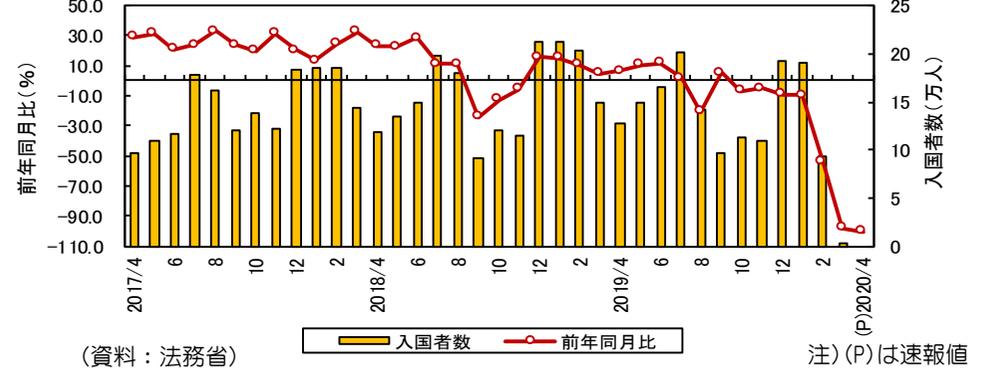
来道客数推移



<4月> 来道客数 163,795人 (▲84.2%)
 ※北海道外から航空機(国内線)、JR(北海道新幹線)、フェリーを利用して来道した旅客数。
 ※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

(資料：(公社)北海道観光振興機構)

道内外国人入国者数



<4月>
 入国者数 1人(▲100.0%)

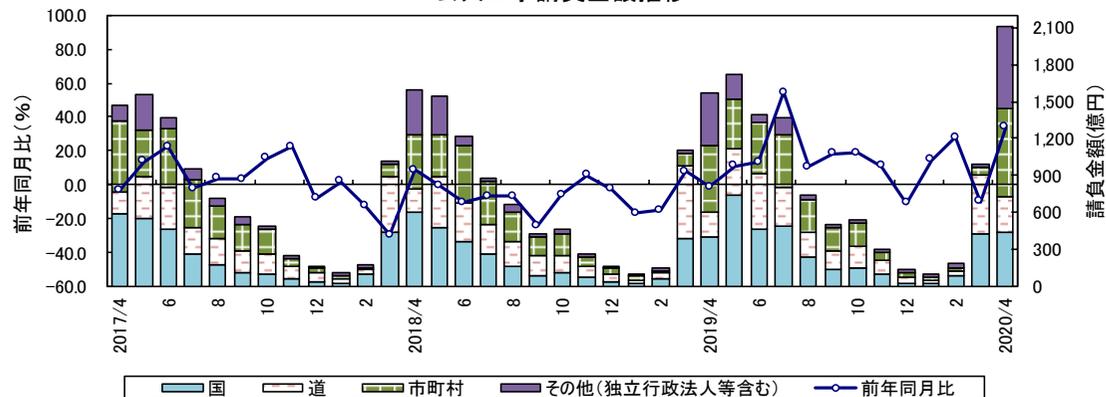
【ヒアリング内容】

- ・4月の入込客数は、前年比で9割減。予約を受けていた一部の宿泊施設は営業していたが、一日に一組か二組が宿泊した程度。(関係機関)
- ・5月は、全国緊急事態宣言が解除された最終週にお客が少しはいたかという程度。平日はほぼ全ての宿泊施設が休業し、外国人客はゼロの状況。(関係機関)

公共工事 ～ 増加している ～

4月の公共工事請負金額は、国、道、市町村の全てで前年を上回り、前年同月比+33.7%と2か月ぶりに前年を上回った。

公共工事請負金額推移



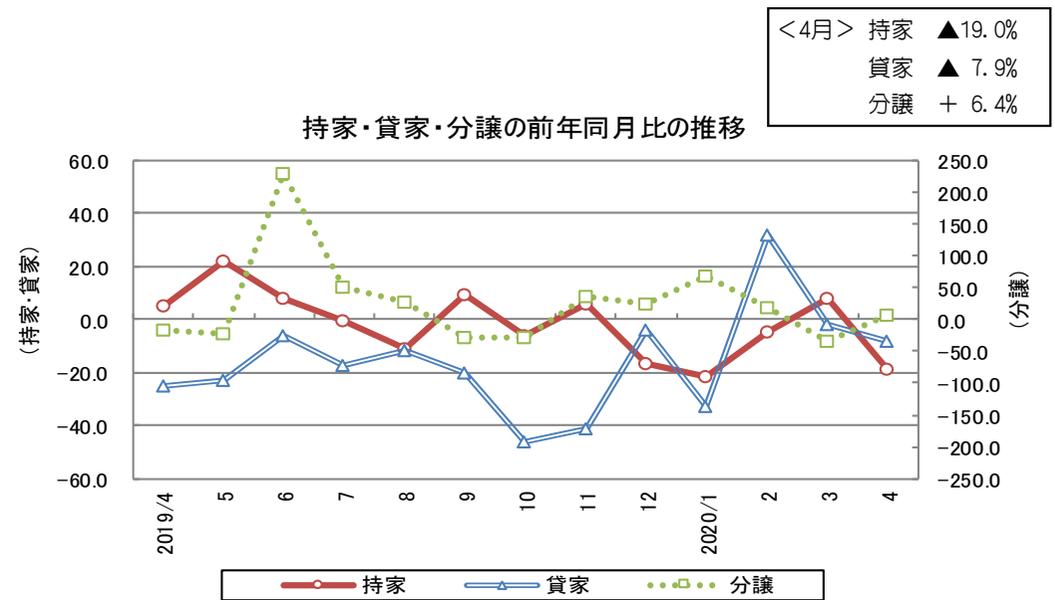
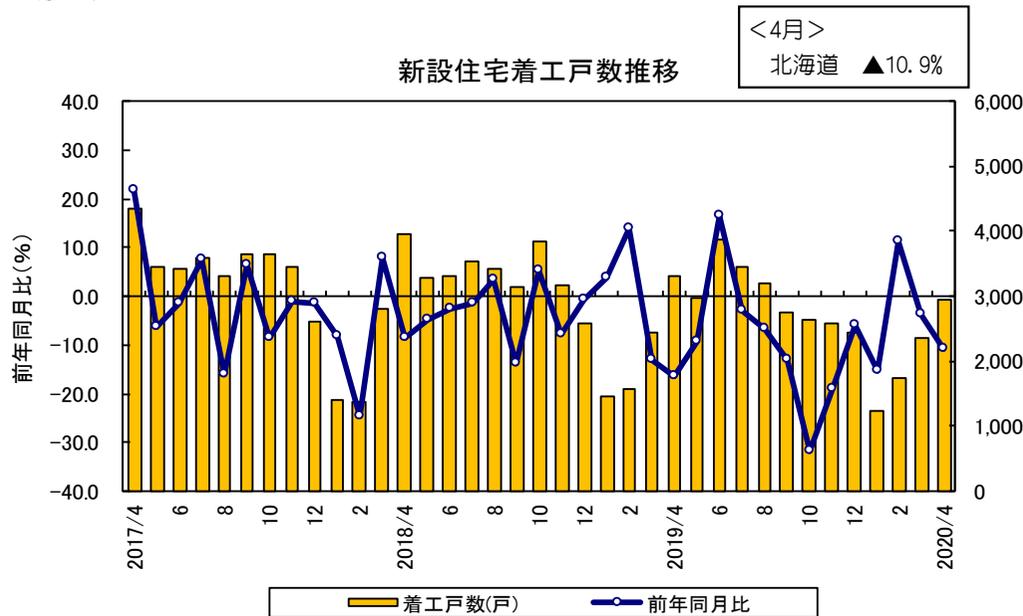
<4月>
 北海道 +33.7%
 (内訳)
 国 +7.1% 道 +50.8% 市町村 +31.7% その他 +53.6%

(請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額)

(資料：北海道建設業信用保証(株)ほか2社)

住宅建設 ~ 低下している ~

4月の新設住宅着工戸数は、分譲は前年を上回ったが、持家と貸家が前年を下回り、前年同月比▲10.9%と2か月連続で前年を下回った。



(資料：国土交通省)

民間設備投資 ~ おおむね横ばいとなっている ~

2020年度の設備投資計画は、全体で前年度比▲1.3%と4年ぶりに前年度を下回る計画となっている。

日銀短観の設備投資動向

2020年4月1日発表

	2019年度	2020年度計画
北海道	+ 8.6%	▲ 1.3%
製造業	+ 20.6%	+ 13.2%
非製造業	+ 3.0%	▲ 9.3%
全国	+ 2.7%	▲ 0.4%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2020年6月11日発表

	2019年度	2020年度
全産業	+ 17.8%	▲ 5.7%
製造業	+ 27.1%	▲ 11.7%
非製造業	+ 13.6%	▲ 0.9%

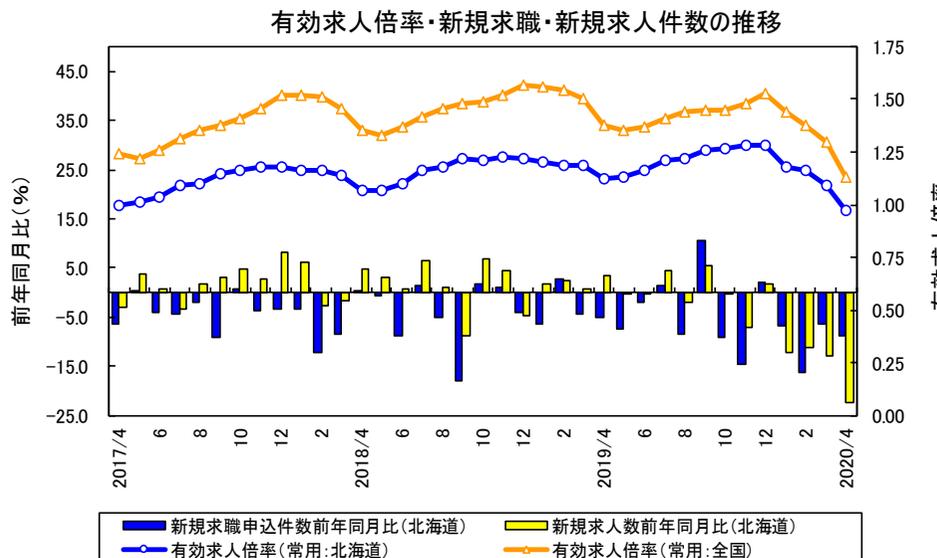
※数値は対前年比増減率。

注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)

雇用動向 ～ 弱い動きがみられる ～

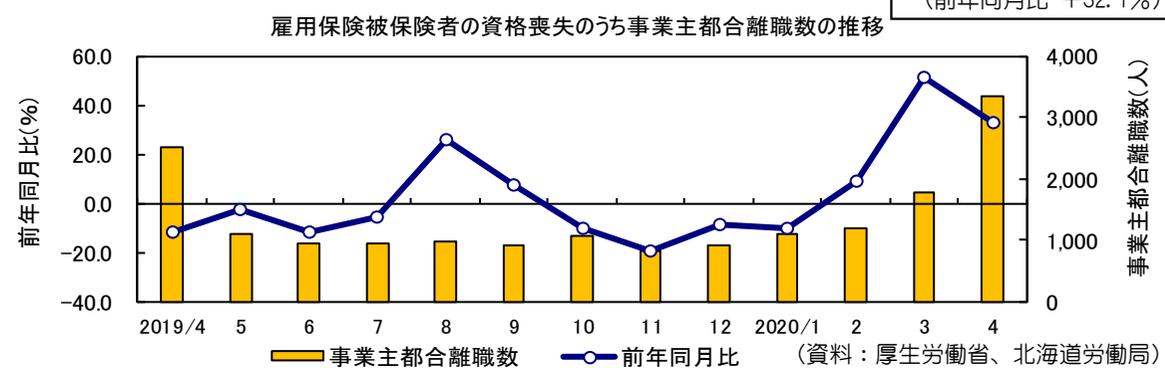
4月の有効求人倍率は、0.97倍と前年同月差0.15ポイント減少し、4か月連続で前年を下回った。



< 4月 >

北海道	有効求人倍率(常用)	0.97倍
	新規求職人数(前年同月比)	▲22.3%
	新規求職申込件数(前年同月比)	▲8.7%
全国	有効求人倍率(常用)	1.13倍

< 4月 >
事業主都合離職数 3,353人
(前年同月比 +32.7%)



企業倒産 ～ 件数、負債総額とも増加している ～

4月の倒産件数は25件で前年同月比+56.3% (9件増)、また、負債総額は33.5億円で同+95.4%と、いずれも3か月ぶりに前年を上回った。

